

西洋道中膝栗毛

二編
下

景
冊
一編



A750
4

西洋道中膝栗毛二編下

東京 假名垣魯文戲著

去程小弥次郎北八の二個の彼織舎の大不可あそ
 荷を廣藏を足快しが倒の程寄のてくらめよ却て
 幾ひの程とあり再吞あ即し小夜を更し翌日遅く
 紀知つるが廣藏の目かゆく、知己の支那人を遠
 島の中務んと今朝を多く他出世と噂より物こ
 りの後然小絶か通毎段の通に那をそのしそ

西洋道中膝栗毛

48-7766

おれも坊ウでる世のさう女どもが寝くると足手
 運びを毛ぬぐらヨ北^北そとうもくモシ陳さんむら
 お孫がひちやス^トおまはまをま^陳ああまのりく^北ね
 おとの^トこれよりやんやまをたのめであらむらとまぢあつ^北のりあつと
 北^北アヤク^ウその家の何高きむらう暖簾よあふ
 書て何のりそ何顔店^カアあんぐも大店^北ごま
 マイ物やア人どろしては家が^北大店と分ッこのご^北これ
 ても路の店と看板^カを出^カく^カ位志やア抱^カの

若人^カ足が多勢集^カッてもおる^北たらう^北ごらむら
 ぬそのよふ一字^カかろくあるのを^カ懐^カ秘^カからそんる
 麻^カまよまをまら^カアありや^カ剃^カ頭^カ店^カと^カよの^カご^カ日
 本の^カ髪^カ結^カ席^カご^カ北^カア^カある^カ髪^カ結^カ席^カが^カ剃^カ頭^カ店^カ
 湯屋^カが^カ洗^カ湯^カ店^カ若^カ抱^カが^カてん^カる^カてん^カる^カ懐^カ仲^カが^カまら
 てん^カてん^カが^カ鳴^カて^カあ^カき^カれ^カら^カア^カゴ^カウ^カ北^カや^カの^カ玉^カの
 文字^カの^カ玉^カだ^カら^カあ^カつ^カま^カと^カま^カら^カゆ^カと^カけ^カ坊^カ豆^カお
 災^カされる^カ世^カ生^カ岐^カお^カよ^カある^カあり^カあ^カん^カぞ^カの^カよ^カは^カら^カら

知色ねくとらがあつたらソツトあれふきけ外岐ガ
 悉イくらヨ北「イヤ」をたすふ日ころこと思ツク強
 幣小幅をきつせるせそんあらむふの生薬屋の
 看板えんと書くある字トの何と読よの誦「ト」レクウ
 何れウエトあれハエとせうも日本の索引トあヤ
 あんふ字の後ハ何のヤあ大懸あは必あの作あ字あだらう
北「ア」の「ハ」負あを「ハ」の「ハ」小志ね人字とハハ
 ハエ支那あから後ツク相志ヤテ福ハそれハからの

ト索引あの日本あの字あと分あ隔あハ五あとあ
北「ヤ」字の後あこの支あ那あから志あヤあ想あ「え
 たら何あ知あたらヨあ「ヤ」後あツク知あハエトか
 ところのヨガア日本あはし引あだらがかりれば八百あや
トああと通あ次あ解あのああとああ「それハ近あさせあハ平あ氣
あ那あと通あ次あ解あのああとああの録あハ解あどんとえたてする持あとああも連あ又あは
 るをえせあつ引あかしく字あ備ああれ形あまをえ
あ那あを結あ師あの必あの町あ人あ女あ解あ賢あのまあらうああ



西洋雜記

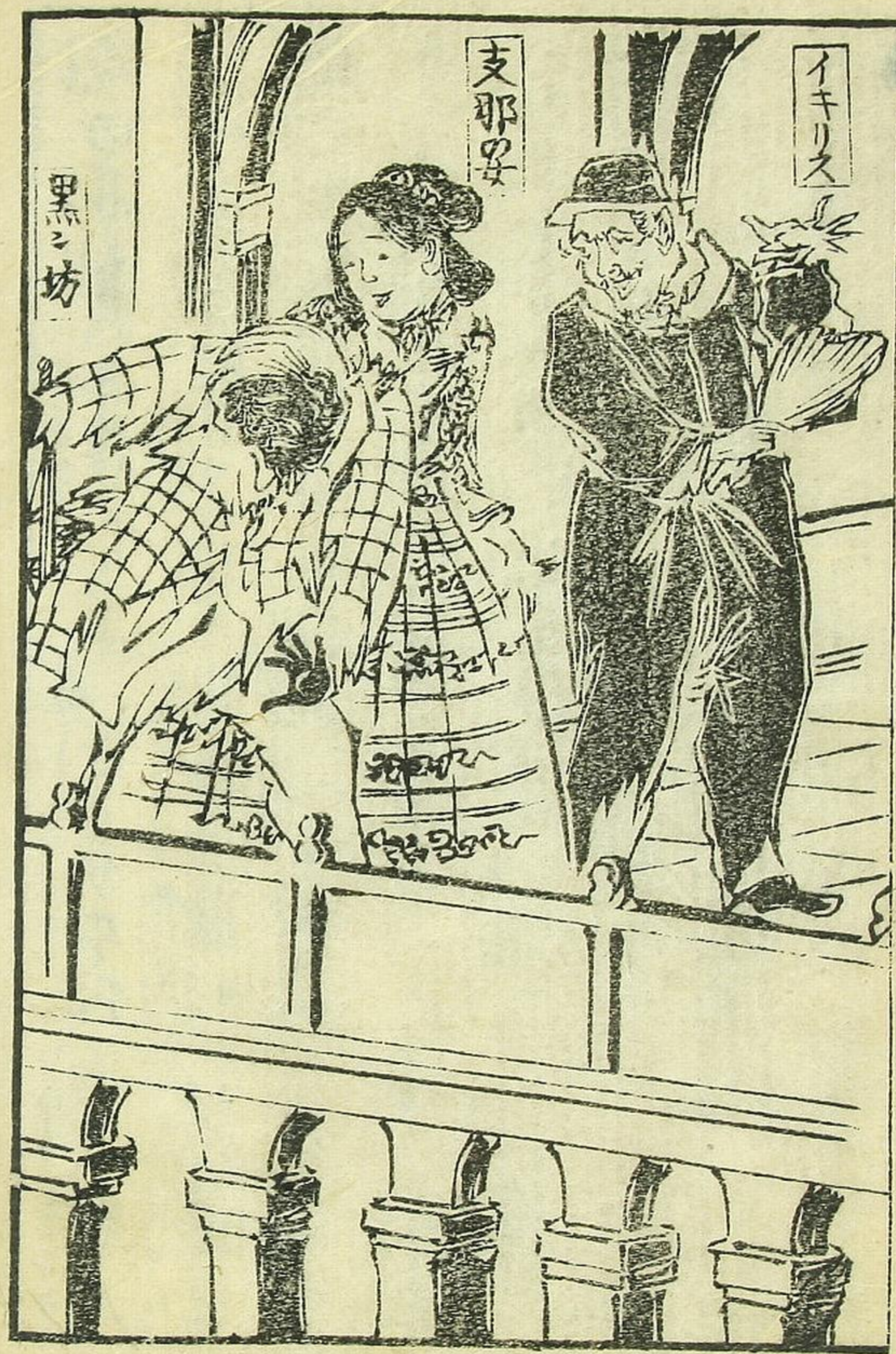
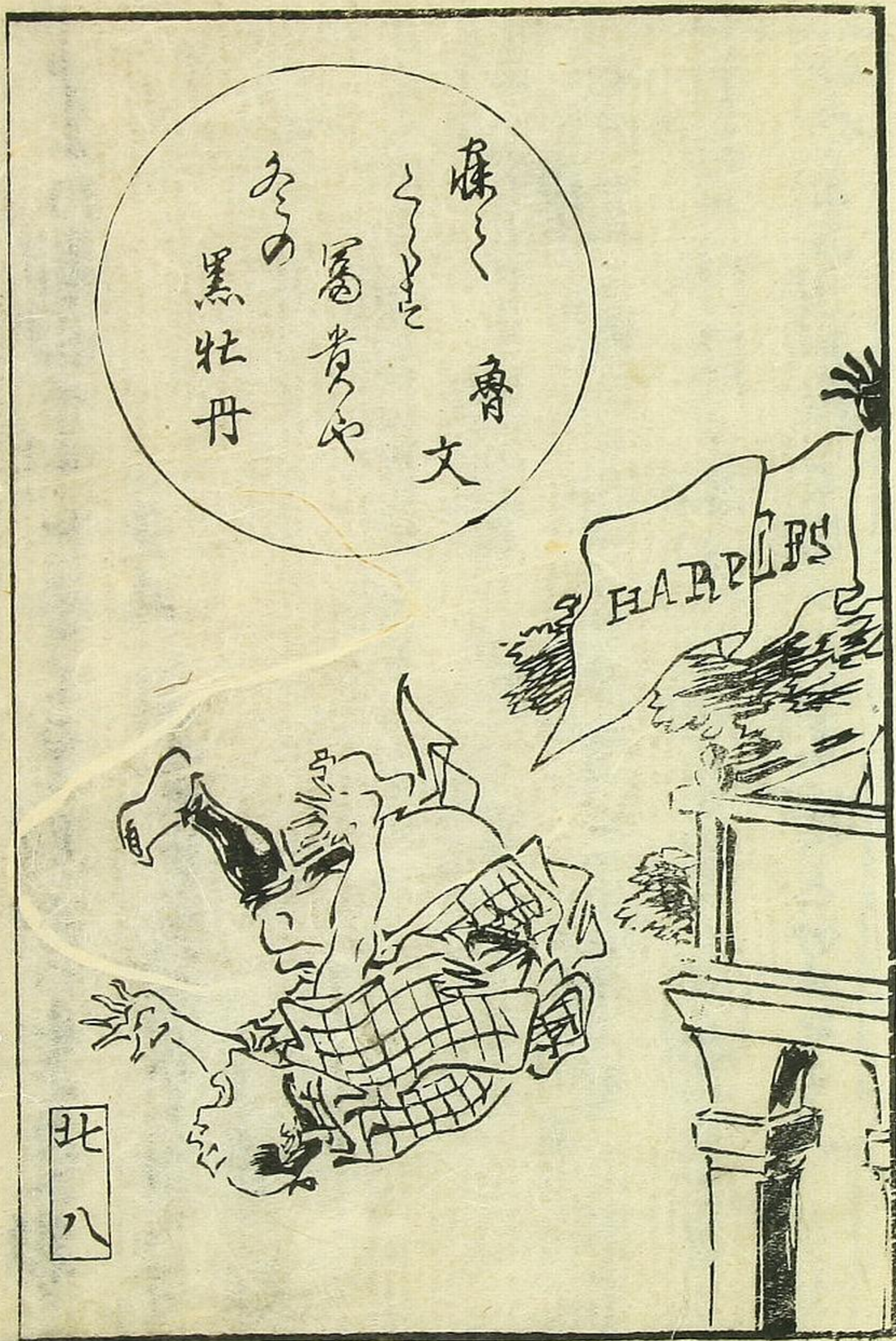
五

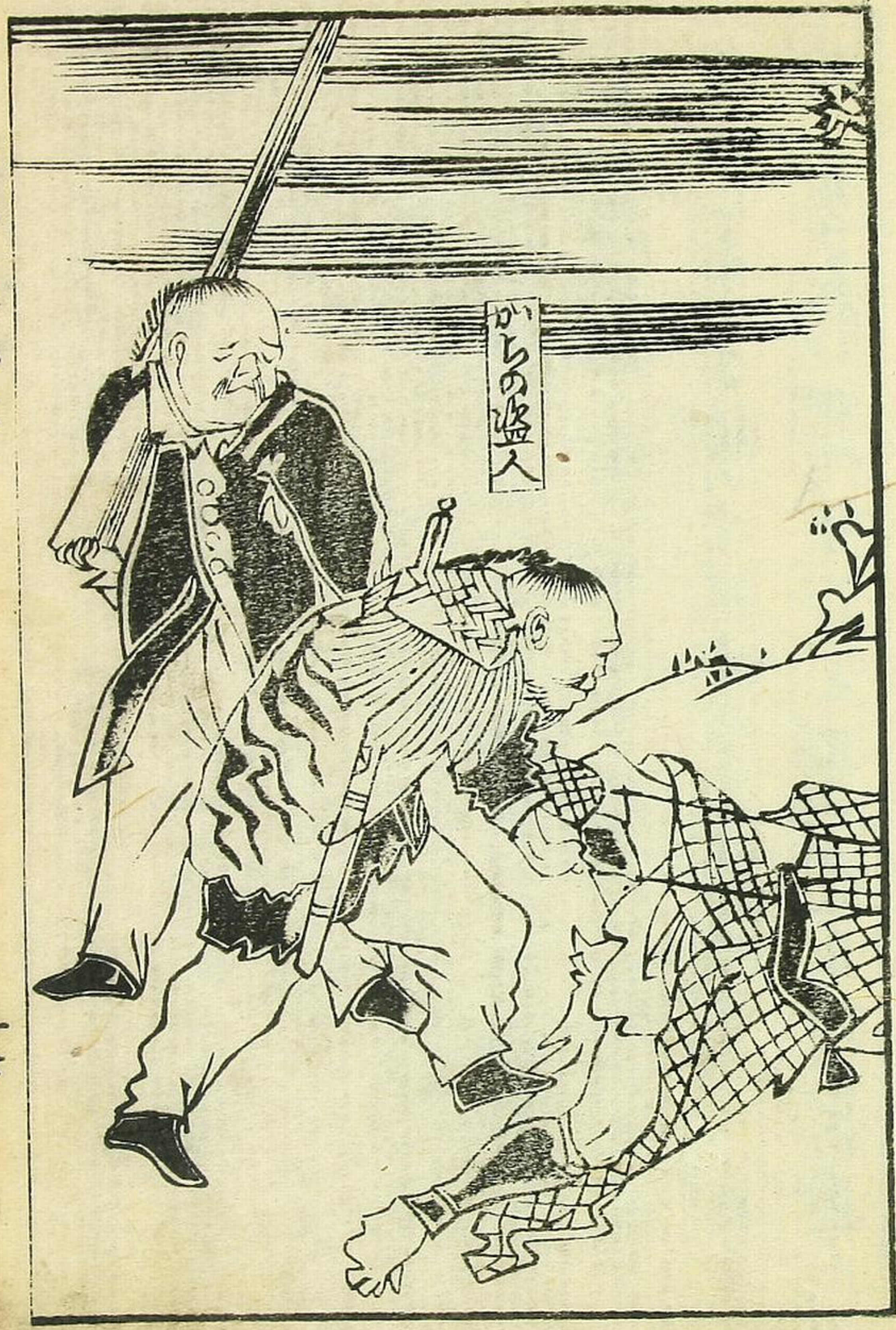
藤桶をまるをうり何むててくせえそくせえアタをく
 おまけふふんづらあそくかき里合をつけうるとのさ
 あり出さく遊倒志やアがくこのまアイタを物板が
 破さようご^キ 漆はらん一寸そくえね人^練 ホニニ書
 利う後人男とせむしてうらう^そ 備へようするひんら
 外^ガ 喰が魚イやあヲヤク^名 大勢唐人まがまるから
 川のある組まで行くまきろをまねサア^あ 出だれ
 うぢまろくく^く 舞のちのあらね^わ 自ひ^北 三イそん

あお野えお何うの移へんごせたと^外 喰がく
 からうが^と 舞のちがあるまが^は 町内と^出 舞のあ
 たうら^は 町の自身^舞 舞へか^つ 唐年考^一 樹合^ツ
 さら^あ 合をの^藤 舞が^で だらう^た 今^の むご^ら
 舞^園 舞^う 舞^橋 の^河 岸^に 舞^く 舞^る 藤^桶 を^捜 舞^や
 まぐ^お 舞^れ ら^ア 舞^エ 舞^シ 舞^次 舞^郎 さん^の 舞^若 舞^者 舞^も 舞^あ
 自分^舞 舞^ま 舞^で ^通 舞^は 舞^を 舞^の 舞^の 舞^け 舞^園 舞^や 舞^ア 舞^自 舞^身 舞^舞
 や^唐 舞^年 舞^考 舞^の 舞^あ 舞^り 舞^ア 舞^あ 舞^ね 舞^し 舞^て 舞^舞 舞^ま 舞^の 舞^あ 舞^づ 舞^由

西洋果毛三下

六





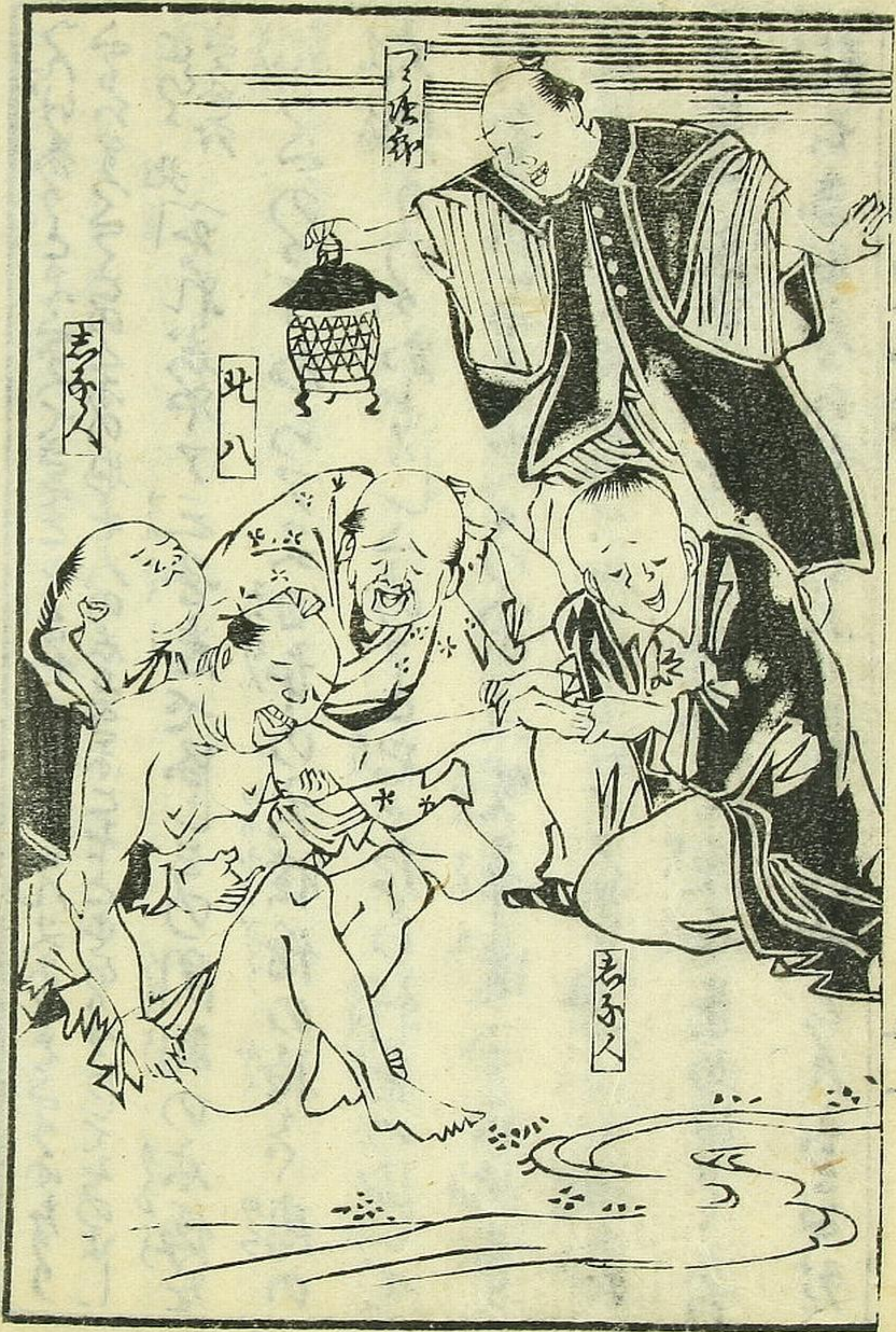
の出づけと云く来かじしが園帝廟の事をせざるよとて
 北八が廟の中より半身外(一作向)例きくる姿をみる
 ようきとぬりぬり〜ゆらゆらきあがりそのまゝつら
 ちつとひ一人ふらふらよりうらふらとゆきかきりして北八の
 ときと存難懐中身のまわり結らむとまきまきまきけり
 ○まふ結次郎通次郎ふりりの若の北八が便所を
 つらつらとよと結りて酒汲か池に結てとま〜一向よ
 けり来たれい如何世しやとあふらふらよあはれの異人

牛切の黒者等何とてじく走来り友人を死巻
 て手込ふあきん形相あるゆぞゆらゆらんと通次郎
 の異人等を制止つゝ英治をぬく酒費を同小
 同伴の男が北八を商家の婢女をとら〜とあはれ
 なる乱妨をよ〜とけし〜と捕〜と後所不連ぬらんと
 あふらふら裏にゆり逆法かばけ〜と同伴のゆら
 お手ありと北の介お互後の指子を咬いて二人り
 の騒ぎさ〜とと云はるまふ然らば婢女の衣後を

とらぎ 百イミ引プウ〜
 北八ヤアイ引〇トキニ通次さんアノ破家班席の何
 細く移さやアがらう圍ったえんちきごせ
 そろサ半座を近おしこの裏はうらぶとらあうら
 物ぞもコリヤ田舎も入送エリ込んで班物ぞも
 つまられ〜小遠くね〜ヨ 班支那の班の金毛九尾
 白面ぶとらうら化〜やうが念がのつて班物を蒸
 麦とぐ塔せたりるの原を巻ふとるせと化走

をする後へ〜とらやアせむめらのヲ通〜
 彼奴が多遠を見込〜とらあうらまきあタラビアン
 小化〜とらあうらまきあ〜とらあうら
 半死半生おあてサセの揚句が不便捕〜ゆかん
 産して天窓の毛を喰切〜とらあうら
 刺とせもきあ〜とらあうら
 どうかお苦勞あうら各方〜とらあうら
 一遍〜とらあうら

西洋東洋二



通 おんちきあぐるも抗まれつらうきまら

ききつらてゆよりめでて人 教心あんど唱あ

めていひ 通さん啓の房よあめ人から 北 七シよ

ろくく謝してあくんあせくブルルヤ ガタヤトあ人

牛登くらひきあきあめあの胃暗よ

らき目を開くあといあ

糸 ヲットおれも一音うんび

から麻の毛を織りあはせ板や

この毛を織りあはせ板や

羽口を縫うてち遠くを宿をたしてゆくけり

○第三編の英領香港の清聖姫家登橋

のあしきより「セイゴ」に海海の船路

風の一回想中の船路をいふ

板仕の男は洋判を弄す

西洋道中膝栗毛二編下巻了

發行書肆

心齋橋通南久室寺町	伊丹屋善兵衛
北久室寺町	河内屋源七
北久太郎町	河内屋喜兵衛
名古屋本町三丁目	菱屋藤兵衛
八丁目	菱屋平兵衛
日本橋通一丁目	須原屋茂兵衛
二丁目	山城屋佐兵衛
芝神明前	小田屋新兵衛
横山町三丁目	岡田屋嘉七
浅草茅町二丁目	和泉屋市兵衛
本石町二丁目	和泉屋金石衛門
	須原屋伊八
	梶屋喜兵衛

